

授業科目 音韻障害演習

【担当教員名】 糟谷政代		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期 a	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要・一般目標：G10】 器質性構音障害を対象にした言語治療の方法を習得して実践するために、種々の技法を実習する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 鼻咽腔閉鎖機能、器質性構音障害の評価を基にして言語治療計画の立案作成する。 代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。 言語症状にあわせて、言語訓練教材を勘考する 言語訓練報告書を用途に応じて作成する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	口蓋裂症例の言語症状の把握をし、具体的に分類する。				講義
2	口蓋裂症例の言語治療計画を立案する。				講義・実習
3	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。(口腔内検査法)				講義・実習
4	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。(構音評価検査法)				講義・実習
5	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。(心理面・母親指導)				講義・実習
6	言語訓練教材の検討し、教材を使用して模擬的に構音訓練を実施する。				講義・実習
7	言語訓練の報告書の作成				講義・実習
8	テスト				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		器質性構音障害 言語聴覚法シリーズ8	齋藤裕恵/編著	建帛者	2,730円
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 レポート 10 授業態度 10 試験 80		【履修上の留意点】 学生同士の模擬的訓練をおこなう予定			